

おわりに 白石正久
Ⅲ「発達の障害」と発達診断 白石正久

はじめに 白石恵里子
Ⅱ発達の段階と発達診断 下孝司
Ⅰ発達保障のための子ども理解の方法 木

子どもの行動がもつ
発達的意味、行動に
潜む発達要求を探る
ことは、子ども理解
と実践の出発点。
(上巻は2021年夏発行)

**新版
教育と保育のための
発達診断 下**

**発達診断の
視点と方法**

白石正久・白石恵理子 編

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-15-10 西早稲田閑ロビル4F
電話(03)5285-2601 FAX(03)5285-2603 www.nginet.or.jp



地域社会へのインクルージョンと 暮らしの場

特集にあたって

中村尚子

1960年代後半、障害者問題への関心の高まりを背景にして、障害の重い人の「親なき後」が課題となつたとき、国は「コロニー懇談会」を立ち上げ、大規模な入所施設開設に踏み出した。同時期、総合的な障害者施策の推進を目的に制定された心身障害者対策基本法（1970）は、本人と家族に自立への努力を求める、重度の障害者にたいして「終生にわたり必要な保護等」を行うと謳つた。家族依存と保護という枠組みである。

1980年代、国際的動向とあいまつて、権利保障をめざした運動によって、施策は地域生活のサポートやグループホーム制度の創設へと向かったものの、予算措置も乏しいままに施策に対する公的責任は後退しつづけた。21世紀に入り障害者権利条約を批准した今日においても、成人期にある障害者の日々の暮らしの平等を実現する施策の遅れは著しいといわざるをえない。とりわけ、暮らしを成り立たせるためになくてはならない「場の保障」は、いまだに親・家族への依存を前提としている。

しかし、この分野の実践が着実に蓄積されていることも事実である。本誌は2004年、「脱施設化とインクルージョン社会」を特集し（第32巻1号）、「施設か地域か」といった選択を迫る問いでなく、「どんな居住形態であろうと、人権が保障される暮らしが求められ」なければならないこと、「地域社会で障害者がソーシャル・エクスクルージョンされない条件整備と脱施設化における地域生活の条件整備が課題」であるという提起をしている。本特集は、この提起に連なるものである。

本特集は、徹底して実践と現実にもとづいて構

成されている。冒頭の座談会では、家族依存の生活が障害のある人の生存権を脅かしている現実から出発し、入所という制度枠組みの施設において「自分らしい暮らし」を模索してきた歩みが語られている。その生存権は、薦部論文につながっている。ノーマライゼーションを机上に止めずたえず検証しつづけている北欧諸国の現実には「住まいの権利」が平等に保障されるという土台がある。つづく伊藤論文は、制度の変化著しいグループホームにあって制度を生かし尽くしつつ改善を求めてきた日本における暮らしづくりの貴重な一面を論じている。後半の北村報告、川瀬・菅原報告は、障害のある人とその家族の多様性を受けとめた実践であり、住まいという空間が暮らしの基盤となることとあわせて、そこに支援する人だけではない、ともに暮らす人びとの存在の重さが描き出されている。また暮らしの主人公である障害のある人、家族の意見を抜きには「暮らしの場」の議論は発展しない。上野・相田両氏の手記と「障害児者の暮らしの場を考える会」の播本報告から深く学びたい。

障害のある人の人としての尊厳ある暮らしをめざすときの指標の一つが障害者権利条約第19条「自立した生活及び地域社会への包容（インクルージョン）」である。どこで誰と生活するかを選択する機会を障害のない人と同等に保障し、特定の形態で生活する義務を負わないといった条約の内容を社会で具体化するために、本特集が活用され、「暮らしの場」の議論が発展することを願う。

(なかむら たかこ)

**障害の重い子どもの
発達と生活**

著者 細渕 富夫

どんなに障害が重くても「心の中で何を感じ、何を思っているのだろうか」と子どもに寄り添うことから始めたい。その第一歩は、子どもを理解するための基礎的なことがらと一緒に学ぶことではないでしょうか。

第1部 重い障害のある子どもを理解する
1 重い障害のある子どもの基礎的理解／2 コミュニケーションの基盤をつくる／3 コミュニケーション欲求を育む 関係発達論を越えて／4 超重症児の内面世界 1/5 超重症児の内面世界 2

第2部 重い障害のある子どものいのちを守る
6 重症児療育のあゆみ／7 重症児のいのちを守る／8 出生前診断と豊かな社会／9 いのちの思想を深める

第3部 重い障害のある子どもと家族の生活を支える
10 新生児医療の現場から／11 家族を支える在宅移行支援／12 医療的ケア児を支える／13 超重症児とその家族の成長

全障研出版部 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-15-10 4階
TEL:03-5285-2601 FAX:03-5285-2603 <http://www.nginet.or.jp>

**障害の重い子どもの
発達と生活**

細渕 富夫

本体 1,700 円+税